

ほっかいっぱいみさきっ子

御前崎市立御前崎小学校 学校だより 令和2年度 1月号



◆令和3年が希望の朝になりますように。

新型コロナの猛威の中ですが、御小の子どもたちの笑顔に励まされる毎日です。3学期始業式は、教室で、動画配信を通して行いました。その中で、私が子どもたちに伝えたのは、次のことです。

「やさしさのバトンを渡す」50日間の3学期にしよう。

～動画を視聴し、……～

やさしさのバトンが渡されていくのを見つけることができましたか？

日本には昔から、「情けは人のためならず」という言葉があります。情けは、その人のためにならないからやめたほうがよい、という意味ではありません。情けは、めぐりめぐって自分のところに帰ってくるものです、だから人には情けをかけるものですよ、という意味です。

また、「恩送り」という言葉もあります。「恩返し」は親切にしてくれたその人に恩を返すことですが、「恩送り」は受けた恩を、別の人に送ることです。6年生がしてくれていることを考えるとよくわかります。今の6年生が、1年生の時にやさしくしてくれた当時の6年生はもう御前崎小にはいませんから、その時のお返しをしたくてもできません。でも6年生はその代わりに、今の1年生にやさしさをたくさん送ってくれていますね。

やさしくすることは、された人が幸せになるだけでなく、

やさしくした人はもっと幸せな気持ちになります。

担任の先生と、もう一度動画を見てみてください。

今度はやさしさを贈った人の表情に、注目してみてください。そのことがわかると思います。

そして、3学期もやっぱり授業です。

今学んでいることは次の学年へつながります。

先生たちと214人の仲間と

「ちえ・くふう・きょうりよく」して、

ほっかいっぱいでバトンを渡す3学期にしましょう。



目と耳と心で聴いてくれて
ありがとう

新年の誓い
坂本伊桜里

私は、やさしさのバトンをわたせるようにする。そのために、大変そうなのやこまっている人がいたら、自分から進んで声をかけた
り、いけないことをしていたらやさしく注意してあげられるようにしたい。

始業式後の教室で、こんなうれしい新年の誓いを見つけました。どの子の誓いも、新年へのその子らしい意気込みを感じました。ますます、ほっかいっぱいの御前崎小になりますように。そして、御前崎小にかかわるすべてのみなさまにとって、

令和3年が明るい年になりますように。

4年生の書初めのお題「信じる」の言葉の
パワーで、今年もどうぞよろしくお願
いいたします。



(校長 仁平美和子)

